

1. はじめに

- 1.1. 清潔（滅菌）手袋の着用方法には手術と処置の内容によって2種類（2方法）あります。A：手術時手洗いを行ってから手袋を着用する、B; 手術時手洗いを行わずに手袋を着用する、の2種類です。
- 1.2. 手袋には清潔手袋と不潔（未滅菌）手袋がありますが、本説明は清潔手袋に関してのものです。

2. 清潔手袋の包装について

- 2.1. 清潔手袋は滅菌物などに接する面が清潔状態のまま着用できるように、外袋と内袋の2重包装された内袋の中に左右一対づつ入っています（図 1A-1D）。
- 2.2. 外袋の外側は不潔、内側は清潔（図 1A）で、内袋は外側も内側も清潔（図 1B）です。
- 2.3. 外袋に入った状態で保管されていますが、皆さんが手袋を着用する時に内袋を開く（図 1C, D）と、滅菌物などに接する面が、手指などの滅菌できないものに接することなく着用できる状態になっています。



外袋(1A)



内袋(1B)



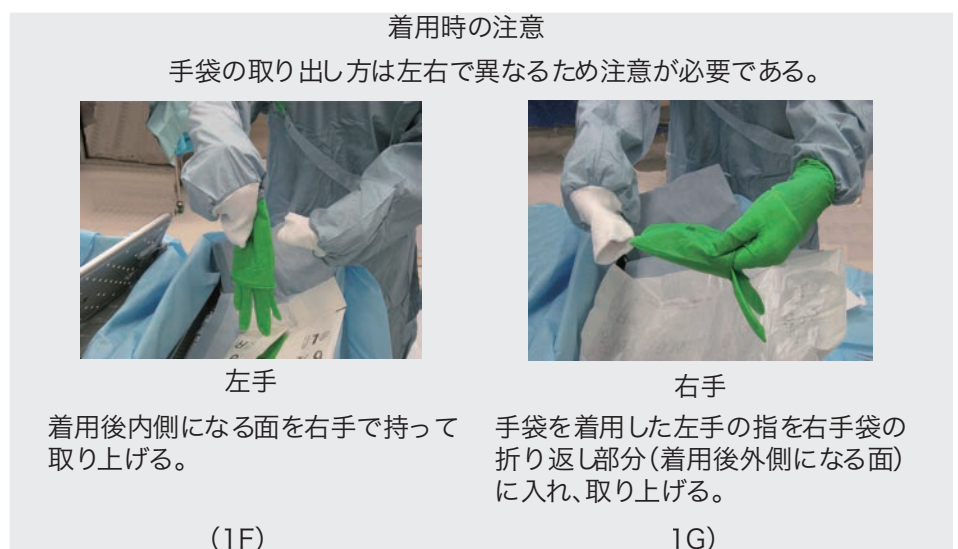
内袋を展開した状態(1C)



内袋を開いた状態(1D)

3. A: 手術時手洗いを行ってから清潔手袋を着用する場合

- 3.1. 適応：見学、助手などで手術に入る場合
- 3.2. 着用場所：清潔器械台上など清潔領域（ブルーシートの部分）で行います。
- 3.3. 方法：①手術時手洗いをして、滅菌ガウン装着後、清潔器械台でかつ清潔手袋の滅菌物などに接する面に手指が触れないように清潔に手袋を着用します（図 1E, F, G）。手は、手術時手洗いをしても感染の危険性を低下させるだけで、滅菌状態にならないからです。



4. B: 手術時手洗いを行わずに清潔手袋を着用する場合

4.1 適応：①膀胱留置カテーテル挿入、②動脈カニューレ挿入、③中心静脈カテーテル挿入などの処置・手技を見学・助手する場合。

4.2. 着用場所：不潔領域で行います。

4.3. 方法：自分で外袋をシールをはぐように開け、内袋を取って、清潔手袋を 1-C のように不潔領域に置き、手袋の滅菌物、清潔組織（消毒された部位を含む）に接する面が不潔にならないように慎重に着用します。

5. 不適切事例

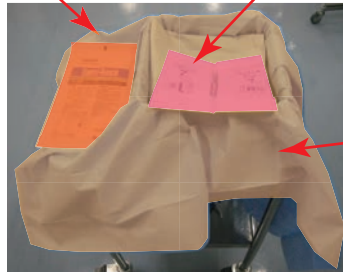
5.1. 手術開始前の膀胱留置カテーテル挿入時に、清潔器械台の上に不潔な手で触った清潔手袋の内袋を置いて手袋を着用した。

5.2. その際、清潔手袋の外袋（未滅菌）をも清潔領域に置いた。

外袋 内袋

清潔手袋の外袋は不潔(未滅菌)で清潔領域に置いてはいけない。

清潔手袋の内袋はもともとは清潔(滅菌済)であるが手術時手洗いしていない手で触ることにより不潔となった。



器械台に乗っている手術機器すべてが不潔と見なされる。

6. 不適切事例から学ぶべきこと

6.1. 清潔と不潔の概念とルールをよく理解しましょう。

6.2. 清潔とは：滅菌された状態および適切に消毒された状態を言います。

6.3. 不潔とは：場所・物品が上記以外の状態にあるときに用います。

6.4. ルール

1) 不潔なものが触れた清潔なもの（滅菌の物品など）は不潔扱いになります。

2) 一つの清潔領域（滅菌済みのブルーシートで明示している部分、清潔手袋の内袋の表面など）は、部分的にも不潔になると、全体が不潔扱いになります。

3) 清潔な物品（滅菌済みの物品）を取り出すときは、包装の外側（不潔）と内側（清潔）の区別に注意しましょう。

4) 清潔領域でも、ブルーシートの端の方は不潔になりやすいので、清潔手袋で安易に触らないでください。

5) 不潔になったかどうか、疑わしいときには必ずその時点で手術室スタッフに申告してください。即座に清潔手袋を履き替える、不潔になった手術器具を清潔なものと交換するなど対応が必要です。